

「地域日本語教育の基本的な方針の策定に向けた実態調査」

アンケート（日本語学校）

1. 教室の運営についてお伺いします

Q1 貴校の運営団体（事業者）の名称について教えてください。

()

Q2 貴校の理念を教えてください。

Q3 川崎市内での開校時期について教えてください。

西暦（ ）年（ ）月（頃）～

Q4 貴校で設置しているコースについて教えてください。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 入学時の日本語レベル別のコース | 2. 目標とする日本語レベル別のコース |
| 3. 学校に通う年数別のコース | 4. その他のコース（ ） |

Q5 奨学金について、どのような取組がありますか。（○は1つだけ）

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 独自の奨学金制度を設けている | 2. 奨学金制度の案内をしている |
| 3. 特にない | 4. その他（ ） |

Q 6 貴校ではどのような教材を使用していますか。(〇はいくつでも)

1. 学校オリジナルの教材(テキスト)を使用している。
2. 市販の教材(テキスト)を使用している。
3. 学校オリジナルの教材と市販の教材を併用して使用している
4. その他 ()

Q 7-1 ICTを活用したリモート学習の状況について教えてください。(〇は1つだけ)

※ICTを活用したリモート学習とは、パソコン・タブレット・スマートフォン等を活用した遠隔学習のことです。

1. 活用している
2. 活用する予定がある () 頃から)
3. 活用したいができない
4. 活用の予定はない
5. その他 ()

Q 7-2 ICTを活用したリモート学習で課題に感じていることがあれば教えてください。

活用していない場合は、活用に当たって課題だと感じていることを教えてください。

Q 8-1 ICT教材の活用状況について教えてください。(〇は1つだけ)

※(例)「つながるひろがる にほんごでのくらし (つなひろ)」

1. 活用している
2. 活用する予定がある () 頃から)
3. 活用したいができない
4. 活用の予定はない
5. その他 ()

Q 8-2 ICT教材の活用で課題に感じていることがあれば教えてください。

活用していない場合は、活用に当たって課題だと感じていることを教えてください。

Q9 ICTの活用で課題に感じていることがあれば教えてください。活用していない場合は、活用に当たって課題だと感じていることを教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1. リモート学習 | 2. ICT教材の活用 |
| 3. 教室のインターネット環境 | 4. 学習者のインターネット環境 |
| 5. 教室で使用する端末
(パソコンやタブレット) | 6. 学習者が使用する端末
(パソコンやタブレット) |
| 7. 教室担当者の知識・スキル | 8. 学習者の知識・スキル |
| 9. 学習内容がオンライン学習に向かない | 10. 学習形態がオンライン学習に向かない |
| 11. 学習内容に合ったICT教材がない | 12. 学習形態に合ったICT教材がない |
| 13. 課題に感じていることはない | |
| 14. その他 () | |

Q10 「川崎市〈やさしい日本語〉ガイドライン」の活用状況について教えてください。(〇は1つだけ)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 知っていて、活用もしている | 2. 知っているが、活用はしていない |
| 3. 知らないが、活用したい | 4. 知らないし、活用の予定はない |
| 5. その他 () | |

Q11 貴校では次のような施設や設備をお持ちですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 学生寮 | 2. 学生相談室 |
| 3. 図書館(室) | 4. 交流スペース |
| 5. 食堂(カフェ) | 6. その他 () |

Q12 貴校が運営で困っていることがあれば教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 入学希望者の大幅な減少 | 2. 入学希望者の大幅な増加 |
| 3. 学生の日本語レベルの多様化 | 4. 学生の学習ニーズの多様化 |
| 5. 卒業後の学習フォロー | 6. 卒業後の進路開拓 |
| 7. 日常生活に関する相談への対応 | 8. 教員の能力・資質の向上 |
| 9. 教員の確保 | 10. その他 () |

Q13 外部機関等との連携・協力の状況について教えてください。()内には連携・協力内容を記載
 ください。(〇はいくつでも)

外部機関名	連携・協力の有無	連携・協力内容
1. 他の教室	○ ・ ×	()
2. 川崎市国際交流協会	○ ・ ×	()
3. 日本語学校	○ ・ ×	()
4. 小・中学校、高校、大学	○ ・ ×	()
5. 企業・経済団体	○ ・ ×	()
6. その他	○ ・ ×	()

2. 学生についてお伺いします

Q14 学生の性別ごとの人数について教えてください。

男性 () 人 女性 () 人 その他 () 人

Q15 学生の年齢別の人数について教えてください。

年齢	人数
～18才	() 人
19才～29才	() 人
30才～39才	() 人
40才～49才	() 人
50才～	() 人

Q16 学習者の居住地別の人数について教えてください。

1. 市内 () 人 2. 市外（神奈川県内） () 人
3. 県外 () 人

Q17 学生の国籍・地域別の人数について教えてください。

1. 中国 () 人 2. 韓国 () 人
3. フィリピン () 人 4. ベトナム () 人
5. ネパール () 人 6. インド () 人
7. アメリカ () 人 8. 台湾 () 人
9. ブラジル () 人 10. インドネシア () 人
11. 日本 () 人 12. その他 () 人
13. 把握していない () 人

Q18 学生の学習目的や目標について教えてください。（○はいくつでも）

1. 日本語能力試験合格 2. 日本留学試験合格
3. その他の資格取得 4. 就学、入学試験対策
5. 就職対策 6. 別に通学している学校の授業の補習
7. 職業上の必要性 8. 社会生活上の必要性
9. その他 ()

Q19 学生の卒業後の進路について教えてください。(多い順に1~5の数字を記入)

卒業後の進路	順位
1. 学校に進学 ※各種学校を含む	
2. 学校に編入 ※各種学校を含む	
3. 就職	
4. 転職	
5. 帰国	
6. 決まっていない	
7. 分からない、特に変わらない	
8. その他 ()	

4. その他

Q25 次のうち、日本語教育以外に行っている活動はありますか。(○はいくつでも)

※コロナ禍以前に行っていた活動も含めてお答えください。

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1. 進学・就職相談（サポート） | 2. 日常生活に関する相談 |
| 3. 日常生活に関するサポート
（各種手続きの支援など） | 4. 交流イベント |
| 5. クラブ活動 | 6. 課外活動 |
| 7. スピーチコンテスト | 8. 他校との交流 |
| 9. 地域との交流 | 10. インターンシップ |
| 11. その他（ | ） |

Q26 Q25 の活動について、コロナ禍による影響はありましたか。Q25 で○を付けた項目に対して、あてはまる選択肢に○を付けてください。(○はそれぞれ1つだけ)

項目/選択肢	1. 大いに あった	2. あった	3. 少し あった	4. なかった
1. 進学・就職相談（サポート）	1	2	3	4
2. 日常生活に関する相談	1	2	3	4
3. 日常生活に関するサポート （各種手続きの支援など）	1	2	3	4
4. 交流イベント	1	2	3	4
5. クラブ活動	1	2	3	4
6. 課外活動	1	2	3	4
7. スピーチコンテスト	1	2	3	4
8. 他校との交流	1	2	3	4
9. 地域との交流	1	2	3	4
10. インターンシップ	1	2	3	4
11. その他 （	1	2	3	4
）				

Q27 学校を運営するに当たり、行政に期待することはありますか。(〇はいくつでも)

1. 学校の新規開設を進めるための支援体制の強化
2. 学校の運営や教育を充実させるための支援体制の強化
3. 日本語教師を増やすための支援、研修の充実
4. 日本語ボランティアスタッフの養成や研修の充実
5. 初級レベルの日本語教育の充実
6. 日本語学校の活動内容の紹介や情報提供
7. 外部機関との連携に関するコーディネート
8. 日本語教育のコーディネーターの配置
9. 日本語学校や日本語教育に関わる団体のネットワークの構築や協議会の設置
10. 外国人を雇用している企業との連携・協力体制の構築
11. その他 ()

Q28 地域日本語教育の推進に関して、貴校が川崎市と連携して協力できると思うことがあれば教えてください。(〇はいくつでも)

1. 地域日本語教室の開催
2. 地域日本語教室への教師派遣
3. 指導者研修等の開催
4. 指導者研修等への講師派遣
5. 教材やプログラムに関する情報提供
6. その他 ()

Q29 「日本語教育の参照枠」に基づいた『生活 Can do』の活用状況について教えてください。
(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1. 活用している | 2. 聞いたことはあるが活用はしていない |
| 3. 知らない | |

「日本語教育の参照枠」

言語・文化の相互理解・相互尊重を前提として、学習段階に応じた教育内容などを示し、個々の日本語学習者に応じた日本語教育を 継続的に受けられるようにするための、日本語教育に関わる全ての人々が参照できる、日本語学習、教授、評価のための枠組みです。

『生活 Can do』

国内に在住する外国人（「生活者としての外国人」）が日常生活において、日本語で行うことが想定される言語活動を例示したもの。

Q30 最後に、日本語教育に関するご意見等がありましたら、ご自由にご記入ください。

ご回答を作成いただいたご担当者名をご記入ください。

調査に関して、追加で質問などをお聞きする場合のみ使用いたします。

【学校名】 ()
【所在地】 ()
【電話番号】 (- -)
【メールアドレス】 ()

【役職】 ()
【氏名】 ()

ご協力ありがとうございました。